

平成 26 年度沿岸広域振興局保健福祉環境部（釜石保健所）管内における譲渡事業の実施状況について

○安田 理、徳田 俊美、山田 健治、千崎 則正

1 はじめに

平成 26 年 6 月に環境省は、犬猫の殺処分をできる限り減らし最終的にはゼロにすることを旨とする「人と動物が幸せに暮らす社会の実現プロジェクト」を発表した。対策の 1 つとして、引き取った犬猫の所有者への返還と適正な譲渡の推進が明示された。今年度、当部においても殺処分ゼロを目指して改めて譲渡事業に取り組み始めたので途中経過を報告する。

2 方法

適正な飼い方を啓発することを目的とし、従来から飼い方やマナーについて広報車（月 1 回全地区）及びパピークラス講習会（年 1 回）で広報を行っている。譲渡前講習会は、昨年度から月 1 回定期的（5、12、3 月を除く）に開催しているもので今年度も継続して行った。当部動物愛護担当職員が講師となり、合同庁舎を会場として、平日約 2 時間程度の講習会としている。

講習会の広報について、昨年度は自治体が定期的に発行する広報誌への掲載と当所掲示板へのポスター掲示のみであったことから、今年度は 5 種類の媒体を利用し広報活動に力を入れた。

譲渡前講習会の広報は次のとおり行った。(1) 釜石市及び大槌町により月 1 回または 2 回発行され全戸配布される広報誌のお知らせコーナーへの掲載。(2) 5 月及び 6 月実施分については地元災害エフエム局の番組内で放送。(3) 5 月から 9 月実施分については復興釜石新聞の生活情報欄へ掲載（11 月から有料化）。(4) 当部ホームページ（以下当部 HP）へ写真入りで掲載。(5) 当部及び動物病院掲示板へ写真入りポスターを掲示。

なお、譲渡前講習会に出席できなかった人（3 名）については、希望日時に同等の内容を個別に説明し、講習会にかえた。また、講習会の際に出席者に対しアンケート調査を行い終了後に回収しており、対象者 21 名全員から回答を得ている。

3 結果（12 月末現在）

(1) 参加者数の推移

昨年度は時期による変動は見られなかったが、今年度は 5 月から 8 月までで参加者が 19 名となり全体の 90% を占めた。

表 1 譲渡前講習会への月別参加者数 (単位: 人)

	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	計
H25	1	0	1	2	3	1	2		0	1	11
H26	7	5	5	2	0	0	1	1			21

(2) 参加者の男女構成

今年度は昨年度と比較して男性の参加者が 2 名から 10 名に増加した。

表 2 譲渡前講習会への男女別参加者数(単位:人)

	男	女	計	備考
H25	2	9	11	
H26	10	11	21	内夫婦 1 組

(3) 参加者の年齢構成

30 代以降に偏りは見られなかった。

表 3 譲渡前講習会への年代別参加者数 (単位: 人)

年代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
H26	1	4	4	5	4	3

H25 はデータなし

(4) 受講者が希望する動物種と譲渡頭数

成猫及び成犬希望者は、当部 HP や掲示板ポスターで写真を確認した上で特定の個体を譲

り受けたという明確な希望を持つ人がほとんどだった。譲渡は希望しないものの、適正飼養や県の動物愛護業務について知りたいという講習会のみ参加が3分の1を占めた。

表4 希望動物と譲渡頭数

	子猫	成猫	子犬	成犬	講習会のみ
希望者(人)	6	2	3	3	7
譲渡頭数(頭)	7	1	0	0	

(5) 譲渡前講習会へ参加したきっかけ

参加のきっかけとして、復興釜石新聞を読んできた人が8名と最も多かった。

表5 譲渡前講習会へ参加したきっかけ(複数回答可) (単位:人)

復興釜石新聞※1	8	保健所HP	3	知人から聞いて	2	自治体広報誌	2
保健所問合せ	1	掲示板ポスター	2	地元災害エフエム	0	不明	4

※1 復興釜石新聞:釜石市の全世帯に週2回無料配布されていた新聞。復興に向けた市の情報やまちの話題を掲載。

4 業務実績

今年度は昨年度に比べ猫の譲渡頭数が増加した。

表6 釜石保健所管内の動物愛護管理業務実績 (単位:頭)

	犬				猫				合計			
	引取り ※2	返還	譲渡	殺処分 ※3	引取り ※2	返還	譲渡	殺処分 ※3	引取り ※2	返還	譲渡	殺処分 ※3
H25	9	2	3	2	26	0	3	12	35	2	8	14
H26	2	0	0	1	32	0	8	17	34	0	8	18

※2 殺処分数:死亡及び安楽殺処分の合計。

※3 引取り数には4月1日時点で管理センターで飼養していた数を含む。

5 仮譲渡後に返却された事例

仮譲渡したものの返却された事例が成猫で1例、成犬で2例あった。

表7 返却された事例

動物種	性別	推定年齢	理由
猫	雌:不妊手術未	1才	先住猫(成猫雄)と相性が合わなかった。
犬	雌:不妊手術未	10才前後	夜鳴きをするため2回返却。

6 考察

今年度男性の参加者が増加した理由として、これまでさほど関心を持たなかった人が情報に触れる機会を得て興味を持ったと推察される。

広報の方法で最も有効であった復興釜石新聞は、被災者を含む市民にとって身近で重要な情報源であり有効な手段であったが、11月の有料化により広報の依頼ができなくなった。

当部HPは成犬及び成猫を希望する人及び20代、30代の若い世代に有効だった。HPへ掲載することはリスクを伴うが、今のところ対応に苦慮するような問い合わせはない。成熟個体の譲渡を進めるためにもHPの利用は有効と考える。引き続き様々な媒体を活用したい。

殺処分ゼロを目指して業務を行っているが、県の基準に照らし譲渡適正がない個体は殺処分せざるを得ない。今後は引取り頭数をできるだけ抑えることで殺処分頭数を減らしたい。

本年度希望に添う特徴を持った動物がいなかった際、二戸保健所及び一関保健所の協力を得て当管内の住民に2頭の犬を譲渡することができた。今後も他保健所と連携し譲渡を推進したいと考える。また、動物愛護団体が実施する譲渡会について住民に情報提供するなど、間接的なかたちで動物愛護団体の活動を支援することも必要と考える。